

やよい図書館



フレーズ&センテンス

「本気で、ほんとうにたいせつな、さがしているものがあつたら……。」

今はもうなくしてしまった大切なものを、取り戻したいと思ったことはありませんか？ 駅前商店街のそばの、古い赤い鳥居が立ち並ぶあたりにそのお店があります。「本気で、ほんとうにたいせつなさがしているもの」がある人だけがたどりつくことのできるコンビニです。元は児童書で小学生から読むことができ、ティーンズから大人の方までみなさんにおすすめです。年末に忙しい日常から少し離れて、しばし不思議な世界に行ってみませんか？ 読み終わったときには優しい気持ちになっていることでしょう。第3弾まであり、ほかに姉妹編の『カフェかもめ堂』もあります。

『コンビニたそがれ堂～街かどの魔法の時間～』村山早紀著／ポプラ文庫ピュアフル （中井）

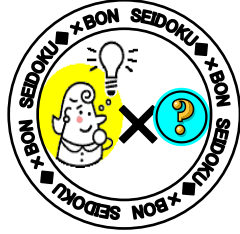
かける×本精読

「×本」とはやよい図書館の造語で、「誰か×誰か」の対談集や「誰か×何か」を特集した本など、意外な組み合わせから生まれた面白い本を紹介するコーナーです。

今の安野光雅×昔の安野光雅『安野光雅のいかれたカバン』 世界文化社

今回紹介する本は日本を代表する絵本作家、安野光雅による過去の自分との対談集です。ある日突然、30年以上も前に壊れたカバンの中からでてきたのは当時自分が描いた作品達でした。発掘されたカットを見て、まだ方言の残る当時の自分とおしゃべりを始める、年を重ねた現在の自分。現在の細かな絵とは違った、明るくポップな絵がとても新鮮です。

(田中)



Cinema library 第9回 7月24日通りのクリスマス

今回はクリスマスに観たくなる、ロマンチックなラブストーリーをご紹介します。

主人公の小百合は地味でさえないOL。そんな彼女がふとしたきっかけで再会したのが、昔あこがれていた高校の先輩でした。あこがれのひとと食事をしたり、デートをしたり…まるで夢のような時間が続きます。でも、ある日、別の男性から尋ねられるのです。「その男の顔がちゃんと見えてる？」と。「ずっと好きだった人」じゃなくて、「今、好きな人」の顔が見えているのか。尋ねられた主人公は言葉に詰まります。それはきっと、恋に恋する自分に気付いたからなのでしょう。そんな彼女が最後に選んだ道とは？ そして、彼女の恋の行方は…？

特別かわいいわけでも何かすごい魅力があるわけでもない、平凡で地味な女性が、恋をきっかけに変わっていく。その姿は、多くの女性たちのあこがれではないでしょうか。映画の中で、先輩と出会ってどんどんオシャレになっていく主人公もステキですが、私は、原作で「間違えて、泣いてもいいから」と一歩踏み出す主人公の姿もまた、美しいと思います。

・『7月24日通り』吉田修一／著 新潮社

・『地球の歩き方 A23 ポルトガル』地球の歩き方編集室／編集 ダイヤモンド・ビッグ社

次回は『くちびるに歌を』です。お楽しみに！（丸山）



親子で「**おうちえほん**」のススメ
NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師 のぐちりえ

Vol.4



★昔話を楽しみましょう★

「むかしむかし あるところに おじいさんとおばあさんが（〇〇が）すんでいました…」

「昔話」の殆どがこのお決まりのことばかり始まります。（むかしむかし）いつの時代か、（あるところに）（おじいさんとおばあさんが…）どこの誰のお話なのかもわからないという、考えてみたらと一ってもアバウトな物語設定。それなのに、「鬼」や「やまんば」が出てきたり、今では考えられない摩訶不思議な現象が起きたりしても、「むかしむかし…」とお話が始まると、私たちは特に深い疑問を持つこともなく、心はイッキに遠い昔の世界へ。そんな半ば強引（？）かつ不思議な「昔話」が私は大好きです♡ 「昔話」には、**幼い子どもの育ちに必要な人間社会の全てのエッセンスが存在すると言われています**。さて、「昔話」を読んでいるママさんに多いのが「**ね、いじわるするとうなつちやうのよ」「ウソをつくとお爺さんみたいになつちやうよ**」などとお子さんに教訓を言ってしまうパターン（笑）。昔話には色々な人物像が出てくるので、親としては最後についひとこと言いたくもなりますが…お話が終わっても子どもは**余韻を楽しみ、自分なりにお話を咀嚼します**。心の栄養に繋がる大切な時間。**理解できたかを確かめたり教訓を言ったりするのはNG**です！ 読み終わったら、「楽しかったね♪」「怖かったねえ！」でおしまい♪ パパママも絵本の時間は心を解放して、お子さんと一緒にお話を楽しんでくださいね。

★今月の絵本★

本当はもっともっと紹介したいのですが…悩みに悩んでこの3冊です！

『あかちゃんのむかしむかし **にんじんさんがあかいわけ**』

松谷みよ子/文 ひらやまえいぞう/絵 （童心社）

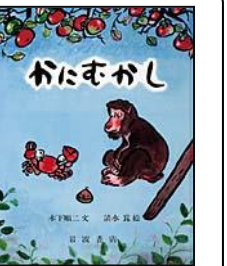
うまれて最初の昔話にオススメなのがコレ。松谷みよ子さんの優しいことばは、読み手の心もほんわかしちゃいます。私は締めくくりのことばが特に好き♡ 読む前に冷蔵庫のお野菜チェックが必要かしらん？ 何故かって？ それは絵本を読んでみてのお楽しみ♡



『かにむかし』

木下 順二/作 清水 崑/絵 （岩波書店）

方言に自信がない？？大丈夫！ 相手は我が子よ（笑）そこが「おうちえほん」の良いところ。テレビの昔話番組のナレーション風に、ここは思いっきり！なりきって！読んでみましょ♪ こういう昔話の王道のようなストーリーは、時代や流行りが変わっても子どもたちは大好きです。



『王さまと九人のきょうだい』

君島 久子/訳 赤羽 末吉/絵 （岩波書店）

小学校の読み聞かせでもよく使われるこの絵本。13分強とちょっと長めのお話なのに幼児の間でも大人気。それぞれにオモシロイ名前（ここがポイント！）の9人兄弟たちの笑える大活躍が子どもたちを飽きさせないのよ。自己を冷静に見つめるようになった小学生には、違ったメッセージも込めて読んであげたいわ。

